

る。やはりこれと同じようなものに、民話、伝説の類があるが、民謡のこれらと最も異なる点は、音曲を伴っていることである。この点が保存のむずかしい最大の理由であり、私がほとんど知らない原因も、ここにあるのである。

また、たとえ、同じ歌詞であっても、どの地方も同じ節まわしで歌われているとは限らないし、同じ地方でも、時代によって、個人によって、多少の相異があることも勿論である。それ故、歌詞と共に、音曲も楽譜にしてぜひ残しておきたいと考えるのである。

この考えの上に立って、浅学の身もかえりみず、前掲の「丹後の民謡」を原本として、母（市内宇八田、明治三十六年生）の記憶にある歌について、採譜を試みた。前述の通り、地方により、個人により、若干の差異はあると思うが、次に掲げるものは、現在、加佐地方に残存している、民謡の一部である。



なかのなかの こぼすや なんて「せーが」みくいじゃ
 ゆうさんに もまれて そんな「せーが」みくいじゃ
 たばこいぶく やすんだ おまえのうしろにだれがいる
 ちがうちがう おまえのうしろにだれがいる
 そーじゃそーじゃ よくあつた

一、中の中の小坊主や

中の中の小坊主や
 なんて背が低いじゃ。
 ゆらさんにもまれて
 そんなで背が低いじゃ。
 たばこいぶく休んだ。
 お前のうしろに誰が
 いる。

（ちがえば、次の
 唄をくり返す）
 ちがうちがう、お前
 のうしろに誰がいる。
 （答があたる）
 そうじゃそうじゃ、
 よく当たった。

これは、私の幼いころ、友達
 と一しょに手をつないで遊んだ、
 なつかしい歌である。近ごろ、
 「かごめかごめ」というのが入
 って来て、この歌は聞かれなく
 なったが、私には、やはり、こ
 の歌の方が親しみがある。

御請申上ル
 同十二日御請書差上

御請書
 今般役名御改正ニ付左之各役人被仰付奉長
 候
 未熟之銘々ニ御座候得共御趣意奉戴仕精々
 相勤勤役可仕候
 依之御請書奉差上候 已上
 明治五壬申年六月十日
 丹後加佐郡第十五大区之内
 副区長見習 水嶋 惣エ門
 副区長 高田 久兵衛
 同見習 安久兵左エ門
 副区長 江上 甚兵衛
 同見習 上羽与惣左エ門
 副区長 木 船 衛門
 同見習 林 次兵衛
 副区長 行永太左エ門
 同見習 安田源左エ門
 副区長 梅原六エ門

豊岡県御役所
 区内へ達書
 加佐郡第十五大区之内

区長 梅垣 西浦
 同見習 池田 弥太郎
 副区長 高田 久兵衛
 同見習 水嶋 惣エ門
 副区長 江上 甚兵衛
 同見習 安久兵左エ門
 副区長 木 船 衛門
 同見習 上羽与惣左エ門
 副区長 行永太左エ門
 同見習 林 次兵衛
 副区長 梅原六エ門
 同見習 安田源左エ門

右之通去ル十日 於

加佐地区の民謡

新宮 美雄

はじめに
 数年前、丹後民謡保存会より、井上正一先
 生の編集で「丹後の民謡」が刊行された。こ
 れを拝見して、まず第一に驚いたことは、私

御県庁ニ被仰付候副区長之義ハ従前大庄屋
 改ニ相当リ候間此段村々致承知無洩御達シ
 可有之候 已上
 第十五大区 会議所
 壬申六月十三日
 区内村々戸長
 副戸長 中

以上のように上羽家の手控は、区長などの
 人選の次第をしたためているが、庶政一新と
 はいっても、まだ封建遺制の中での上意下達
 であることはぬぐえない。（カッコ内は筆者註）

たちの郷土の丹後に大へん多くの民謡がある
 ということである。そして、第二には、その
 ほとんどを知らないということである。
 民謡は、私たちの祖先が長い間の生活から
 生み出した、尊い文化遺産であり、芸術であ